

鳥取・米子城跡21遺跡

よなごじょう

期、平安時代後期及び、近世と多岐にわたる。

木簡が出土した遺構SK四九は、調査地のほぼ東端に位置する、

所在地 鳥取県米子市加茂町ほか

2 調査期間 一九九七年(平9)四月～一一月

3 発掘機関 (財)鳥取県教育文化財団

4 調査担当者 湯村 功・中森 祥・濱 隆造

5 遺跡の種類 城館跡

6 遺跡の年代 縄文時代～明治時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

米子城は中海の入り組んだ湾(米子港)に接する丘陵部に造られ、その北東部に武家屋敷などが展開する。現在までに開発に伴い大小

四〇カ次ほどの発掘調査が行なわれており、(1)～(3)で紹介するものは第一二次調査にあたる。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「伊木小次郎様□□□□□」

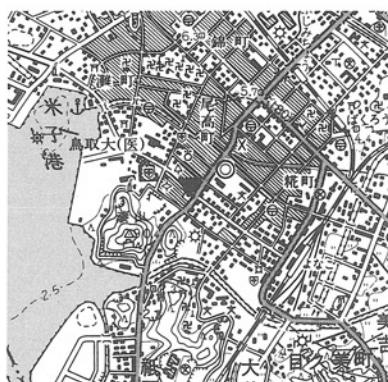
209×28×2 032

(2) 「伊木元右衛門様 二□」

(130)×26×3 039

(3) 「かれい七枚」

(122)×24×1 039



(米子)

調査は県道拡幅工事に伴うもので、A～Eの五つの細長い調査区に分かれる。検出された遺構の時期は、弥生時代中期、古墳時代前

(4)

• Γν

185×30×3 033

漆が塗布される。

「新工商日報」
光緒三

236×23×2 033

（財）鳥取県教育文化財団『米子城跡21遺跡』（一九九八年）
佐伯純也「米子城跡出土木簡に見る贈答行為について」（『伯耆文
化』創刊号、一九九九年）

(c)

•

•

(153) $\times 27 \times 4$ 039

野浪長左衛門様

上表式拾枚

239×(48)×7 065

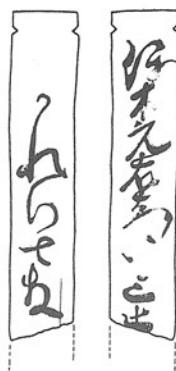
(1)は下端部は削りか。上端部は左右の角を落とす。(2)は下部が欠損し、上端部は平坦に削る。頭部は両側から切り込みが入れられる。(3)は下部欠損。上端部はやや磨滅気味だが、(1)同様左右の角が切れ、頭部に切り込みが入る。

(1)～(4)は下半部の一部が欠損するが、ほとんどが残存する。上端部は(4)は下半部の一部が欠損するが、ほとんどが残存する。上端部は
(1)(3)同様の形態を示すが、(1)に比べると扁平である。墨書きは両面に
みられるが、不明瞭である。(5)は頭部片側が欠損する。頭部が両側
から切り込まれ、上端部は切断している。(6)は下部が欠損。頭部は

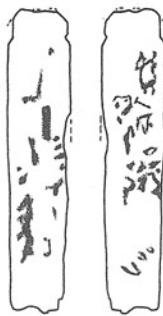
左右から切り込みがあり、その上部の左右は欠損する。(7)は桶など
の部材を転用したものであろうか。釘穴が二ヵ所みられ、一部に黒



(1)



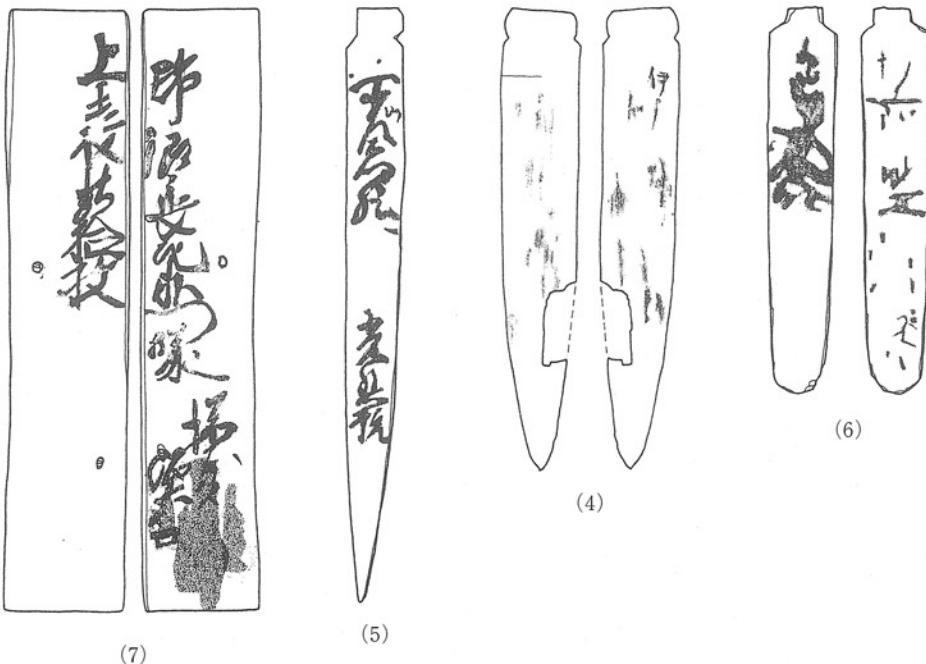
(2)



(3)

(中森
祥)

2003年出土の木簡



(6)

(4)

(5)

(7)

(6)

(4)

(5)

(7)

卷頭言

木 簡 研 究 第 一 九 号

町 田 章

一九九六年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡 藤原宮跡 恭仁宮跡 長岡京跡 平安京跡
左京八条三坊十四町(八条院町) 末窯跡群 大坂城跡 広島藩大坂藏屋
敷跡 楠葉野田西遺跡 三条九ノ坪遺跡 大物遺跡 深田遺跡 安倉南
遺跡 明石城跡 坪櫓 明石城武家屋敷跡 榄狭遺跡 印場城跡 角江遺
跡 御殿・二之宮遺跡 川合遺跡 志保田地区 北条小町邸跡 伊興遺跡
丸之内三丁目遺跡 汐留遺跡 江戸城外堀跡 牛込御門外橋詰 尾張藩上
屋敷跡遺跡 青山学院構内遺跡 岡部条里遺跡 上山神社遺跡 湯ノ部
遺跡 観音寺城下町遺跡 小谷城跡 高山城三之丸堀跡 松本城三の丸
跡 土居尻 松本城下町跡 伊勢町 前橋城遺跡 大猿田遺跡 根岸遺跡
泉平館跡 山王遺跡 舟場遺跡 無量光院跡 志羅山遺跡 後田遺跡
亀ヶ崎城跡 宮ノ下遺跡 上高田遺跡 大橋遺跡 扇田柵跡 長田南遺
跡 金石本町遺跡 田尻遺跡 大坪遺跡 舞臺遺跡 馬寄遺跡 下町・
坊城遺跡 新発田城跡 目久美遺跡 天神遺跡 三田谷一遺跡 鴻の巣
東遺跡 吉川元春館跡 長登銅山跡 飛田坂本遺跡 博多遺跡群 香椎
B遺跡 鞠智城跡 前田遺跡 那覇港周辺遺跡群 旧東村地区

一九七七年以前出土の木簡（一九）

美作国府跡

韓國出土の木簡について

史料紹介 琉球の木簡二題

書評 山里純一著『沖縄の魔除けとまじない——フーフダ（符札）の研究』

書評 東野治之著『長屋王家木簡の研究』

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

李 成 市

山 里 純 一

高 島 英 之

鶴 見 泰 寿